（３７） みょうが

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 根茎腐敗病 *Pythium zingiberis*	1.苗は無病圃場で育成する。 2.５年以上の輪作を行う。 3.排水をよくして過湿を避ける。 4.地下水位の高い圃場では高うね栽培を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キルパーの消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－	キルパー
		発生初期	4 21 21	リドミル粒剤２ ランマンフロアブル オラクル顆粒水和剤
2 白絹病	1.発病株を抜き取る。 2.株堀取り後に湛水する。 3.連作を避け、水田との輪作を行う。	発生初期	14	リゾレックス水和剤
3 立枯症	1.苗は無病圃場で育成する。 2.連作を避ける。 3.早期に感染した罹病株は圃場外に持ち出し、処分する。 4.冬期に耕転し罹病塊茎の腐敗を促す。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	定植前	M3 M3	ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
4 葉枯病 *Mycosphaerella zingiberis*	1.肥料切れを起こさないよう、適切な肥培管理に努める。 2.日当たりがよく、乾燥しやすい圃場で発生が多い。	発生前	M5	ダコニール１０００
5 紋枯病	1.水田に戻すなど、輪作を行う。 2.収穫残さは圃場外に持ち出し、処分する。	発生初期	M5	ダコニール１０００
6 ハダニ類	1.圃場周辺雑草の防除を行う。 2.収穫後の残さは速やかに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アファーム乳剤、コロマイト乳剤、コテツフロアブル、マイトコーネフロアブル、サンマイトフロアブル、スターマイトフロアブルは、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。	発生初期	6 6 13 20D 21A 25A 25A	アファーム乳剤 コロマイト乳剤 コテツフロアブル マイトコーネフロアブル サンマイトフロアブル スターマイトフロアブル ダニサラバフロアブル
7 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カスケード乳剤、アタブロン乳剤、アグロスリン水和剤は、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。	発生初期	15 15 28	カスケード乳剤 アタブロン乳剤 フェニックス顆粒水和剤
		茎葉伸長期	3A	アグロスリン水和剤
8 アザミウマ類	1.圃場周辺雑草の防除を行う。 2.収穫後の残さは速やかに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アグロスリン水和剤、スピノエース顆粒水和剤は、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。	発生初期	3A 5	アグロスリン水和剤 スピノエース顆粒水和剤
9 カイガラムシ類	1.圃場周辺雑草の防除を行う。 2.収穫後の残さは速やかに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤー顆粒水和剤、アクタラ顆粒水和剤、ダントツ水溶剤は、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により、散布液が直接花穂に飛散しない状態で散布する。 2.アクタラ顆粒水和剤はコナカイガラムシ類に登録がある。 3.ダントツ粒剤はナスコナカイガラムシに登録がある。	発生初期	4A 4A 4A	アドマイヤー顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤
10 ネコブセンチュウ	1.被害株の間引きを行う。 2.水田への転作が可能なところでは、１～２年間、畑を水田化する。	定植前	1B	ネマトリンエース粒剤